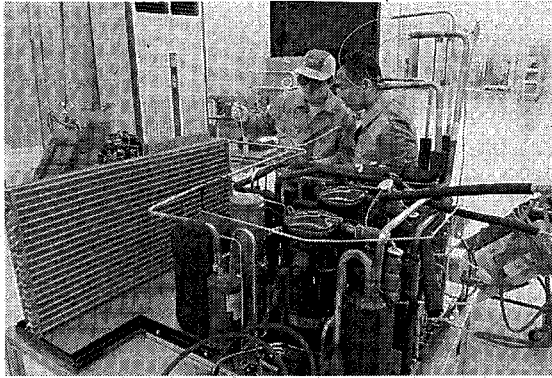


液晶関連中小 アジアに軸足

関西の基幹産業の液晶パネルを支えてきた中堅・中小メーカーがアジアに軸足を移し始めた。次世代製品である有機EL向けの開発でアジアのパネル大手と連携し、国内に限定していた分野を移管する。国内の電機大手だけでは今後の成長が期待できないとみて、アジアでの取引先を開拓する。アジア企業も日本の中堅・中小に対して秋波を送っており、技術流出の懸念が高まっている。

製造・検査装置



エスベックは韓国工場で電子部品などの試験装置の生産に乗り出す(韓国・平沢市)

現地企業と共同開発 生産拠点を 新設・移管

液晶パネル製造装置を手がけるFUK(奈良県御所市、植村光生社長)はこのほど、有機ELパネル用製造装置の開発に乗り出した。パートナー

には国産勢でなくアジアの大手パネルメーカーを選んだ。有機ELはバックライトが不要で、コントラストの高い鮮明な映像を表示できる。歩留まりの低さが課題で、FUKはパートナー企業の要望を取り入れながら製造装置の細かい仕様を詰める。

同社が日本のパネルメーカーではなくアジア企業と組むのは、生産規模が格段に大きいからだ。同社はかつて中小型液晶パネルの製造装置をシェアと共同開発したことがある。だがシャープが新規投資を圧縮して製造装置の出荷台数が伸び悩み、投資回収に苦心した

という。製品の開発と生産は密接に関係する。開発がアジアにシフトすると生産機能も一緒に移るケースは多い。液晶パネルのフィルムやガラスの張り合わせ装置を手がける淀川ヒューテック(大阪府吹田市、小川克己社長)はこのほど、韓国・平沢市

に新工場を造った。生産した張り合わせ装置は、韓国の大手パネルメーカーに供給する。韓国の精度やコスト、納期の要求が日本企業に比べて厳しい。顧客の近くに工場を置き、先方の要望を最新鋭機的设计や既存装置の改造に素早く反映できるようにした。

生産のアジアシフトは最先端製品にも及ぶ。液晶パネルや電子部品の品質検査装置を手がけるエスベックは、今春にも韓国・平沢市の工場で生産を始める。これまで高機能機種は福知山工場(京都府福知山市)で生産し輸出していた。だが韓国は原材料や人件費が安く、生産コストを日本に比べて約3〜4割減らせる見込み。韓国工場を福知山工場に代わる輸出拠点と位置付け、生産台数を年1000台程度まで引き上げる。

テレビなどの最終製品で世界市場を席巻するアジア企業だが、製造装置や素材・部材に関する技術的な蓄積はまだ不十分な状態にある。遅れを挽回するために、技術的な力ぎを握る関西の中堅・中小企業に接近してきたのである。

生産・機能面で高い技術 アジア企業が注目

造サービス(EMS)が出迫られた。見返りは開発費なピラミッドを築いてきすから、パソコン向け部品用の肩代わり。魅力的な話だ。中堅・中小企業は大企業の加工拠点を設立してほしではあったが、供給先を限定するという要請だった。その定されるとビジネスが拡大しにくいと考えると受けなかつた。同社の社長は「韓国企業に末に申し出を断った。技 術 流出、競争力喪失も」

海外流出、競争力喪失も
術を習得しようという思惑業は日本企業の高度な技術が透けて見えた」からだ。を囲い込み、日本勢や中国ある液晶パネルの製造装置が追撃できない状況をつくることとしている。エスベックは独自開発した最新の装置について、韓 国LG電子から独占供給をメーカーを頂点とする強固警鐘を鳴らしている。

シャープの液晶技術者だつた立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)の中田行彦教授は「製造装置や素材技術の海外流出は将来の競争力喪失につながる」と